

式年遷宮で技術の継承を（蒲神明宮様）

浜松市の蒲神明宮様（浜松市東区神立町）では、二十年に一度の式年遷宮に伴う外宮本殿改築の上棟祭が四月十九日に行われました。前日は雨が降りましたが、当日は朝から快晴の上棟日和となりました。当初は盛大な上棟祭を予定していたのですが、残念なことに新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、各区の総代さんと工事関係者のみの参加となってしまいました。しかし工匠の儀は小澤棟梁を筆頭に厳かに進められ、工事の安全と蒲神明宮様と氏子の皆様の繁栄を願いました。



この度の式年遷宮ではこれまでであった本殿と神門を解体し、その解体材の寸法を取り直し、新しい材木で以前と同じものを建てます。八月の完成を目指し、安全第一で工事を行っていきます。秋には遷座祭と奉祝祭が予定されていますが新型コロナウイルス収束し、氏子の皆様と安心してお祝いができることを心より願っております。

史跡整備にともない移築（国分寺様）



磐田市役所の北側の遠江国分寺跡に建つ、真言宗の国分寺様では薬師堂解体移築工事の地鎮祭を三月二六日におこないました。遠江国分寺跡は昭和二六年に発掘調査がされ、七重の塔跡をはじめ重要な伽藍が発見されました。そして翌二七年に国の特別史跡に指定され磐田市民の公園として整備し長年にわたり活用されてきました。が、平成二九年に再整備が決定されました。それに伴い国分寺様も同じ史跡内ですが移転することとなりました。

国分寺は天平一三年（七四一年）に聖武天皇が仏教による国家鎮護のため各国に建立を命じ、遠江国分寺は金堂を中心に七重の塔・講堂・中門・回廊などの伽藍が配置され、伽藍は築地塀などによって区画されていたようです。